

ANGLe Chair

都立工芸高等学校

作品説明

日本古来から伝統工芸にある和の技法。日本現代ではスタンダードとして広がる洋の様式。それらを共存させるようデザインした椅子。

フォームや全体的な形体は洋式的なクッションを布張りした座面と背の高い背面で構成した。対して部材の接合方法や、そのディテールは江戸指物の技法を用いた。加えて、布地は着物のパッチワークを施している。

ものづくりにおいて文化の違いは、お互いが尊重されるべきである。その関係性をデザインすることこそが、これからのものづくりに必要な視座となる。

